

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
株式会社鶴見製作所 新工場棟建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.1	
Q1 室内環境					0.30			3/4	
1 音環境				3.6	0.15			3.6	
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40				
1.2 遮音		遮音性能T-2サッシを採用している。		4.2	0.40				
1 開口部遮音性能		-		5.0	0.60				
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-							
1.3 吸音		事務所エリア、トイレの壁・天井に吸音材を設置		4.0	0.20				
2 温熱環境				3.0	0.35			3.0	
2.1 室温制御		-		3.0	0.50				
1 室温		-		3.0	0.38				
2 外皮性能		-		3.0	0.25				
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38				
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20				
2.3 空調方式		-		3.0	0.30				
3 光・視環境				2.9	0.25			2.9	
3.1 昼光利用		-		2.2	0.30				
1 昼光率		-		1.0	0.60				
2 方位別開口		-							
3 昼光利用設備		3階事務室南側・東側にハイサッシを設け自然光を取り入れる計画		4.0	0.40				
3.2 グレア対策		-		3.0	0.30				
1 昼光制御		-		3.0	1.00				
3.3 照度		照度700lxとしている。		4.0	0.15				
3.4 照明制御		-		3.0	0.25				
4 空気質環境				4.4	0.25			4.4	
4.1 発生源対策		-		5.0	0.50				
1 化学汚染物質		ほぼ全面にF☆☆☆☆、VOCが検出されない建材を採用している。		5.0	1.00				
4.2 換気		-		3.0	0.30				
1 換気量		-		3.0	0.33				
2 自然換気性能		-		3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33				
4.3 運用管理		-		5.0	0.20				
1 CO ₂ の監視		-							
2 喫煙の制御		建物全体を禁煙としている。		5.0	1.00				
Q2 サステナビリティ性能					0.30			3/4	
1 機能性				3.2	0.40			3.2	
1.1 機能性・使いやすさ		-		3.0	0.40				
1 広さ・収納性		-		3.0	0.33				
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	0.33				
3 バリアフリー計画		-		3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性		-		3.3	0.30				
1 広さ感・景観		3階事務室 天井高:CH=2800		4.0	0.33				
2 リフレッシュスペース		1階ホール 自動販売機の設置		3.0	0.33				
3 内装計画		-		3.0	0.33				
1.3 維持管理		-		3.5	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		外壁に防汚性の高い断熱パネルを採用している		4.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30			3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数		-		3.4	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		3.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水B、汚水排水B、Eは不使用。		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20				
2.4 信頼性		-		2.8	0.20				
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20				
3 電気設備		-		3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20				
5 通信・情報設備		-		2.0	0.20				

3 対応性・更新性			4.2	0.30		-	4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1 階高のゆとり		生産エリアはゆとりのある階高で計画	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		専有面積を広く確保し、空間の自由さを実現	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		生産エリアの床荷重1.5t以上	5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性		-	3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		-	3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		-	3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			3.0	0.40		-	2.7
1 生物環境の保全と創出		-	2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		-	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.4
LR1 エネルギー			3.0	0.40		-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		-	1.0	0.20		-	1.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEIm=0.66	4.4	0.50		-	4.4
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング		-	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		-	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			-	-		-	
4.1 モニタリング		-	-	-		-	
4.2 運用管理体制		-	-	-		-	
LR2 資源・エネルギー			3.0	0.30		-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水型便器を採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60		-	3.7
2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.14		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	-	-		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.29		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン、ビニル系床材	4.0	0.29		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		乾式間仕切り壁の採用、OAフロアの採用	5.0	0.29		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1 消火剤		-	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		押出法ポリスチレンフォームを使用している。	4.0	0.50		-	
3 冷媒		-	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			3.0	0.30		-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2:62%	4.5	0.33		-	4.5
2 地域環境への配慮			3.3	0.33		-	3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33		-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音		-	3.0	1.00		-	
2 振動		-	-	-		-	
3 悪臭		-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制		-	-	-		-	
3 日照障害の抑制		-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	2.0	0.70		-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

株式会社鶴見製作所京都工場 新工場棟建設工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0	-	○	-	-	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	-	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	-	2.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0	-	2.0	2.0	-	3.0	1.0	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0	-	1.0	-	3.0	3.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC
星光率	0.0%	ηAH	-
自然換気有効開口面積率	2.4%	-	-

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡	-	-	-	-	-	-
天井高	0 m	-	-	-	-	-	-

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

リフレッシュスペース	3.6%	レストスペース	0.0%
想定耐用年数	0 年	-	-
想定必要間隔	0 年	-	-
想定必要間隔	0 年	-	-
想定必要間隔	0 年	-	-

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

階高	5.04 m
壁長さ比率	8.0%
床荷重	15000 N/m2

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

外構緑化指数	40%	建物緑化指数	0%
空地率	64%	水平投影面積率	0%
地表面對策面積率	40%	舗装面積率	23%

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

BPI/BPI _m	-	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%
		採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす住戸数	0.0%
BPI/BPI _m	非住宅	住宅	-
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW
雨水利用率	0.0%	-	-
特定調達品目	-	エコマーク商品	-
使用比率	0.0%	自治体指定の特定品目等	-
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	-
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	-

見付面積比	20%	隣棟間隔指標Rw	12.99
地表面對策面積率	41.0%	屋根面對策面積率	0.0%
		外壁面對策面積率	#DIV/0!
見付面積Sb	815㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	284.645 m
		基準高さHb	14.16 m
緑地	6,639㎡	水面	㎡
		保水性対策面	㎡
		高反射対策面	200㎡
		再帰性反射対策面	㎡